



**PROFILE** 左から名波雅史 (31)、植田大輔 (31)、石原豊 (31)、鈴木千明 (37)、篠原一晃 (29)、前列中央は、土屋大地 (22) の各隊員。



# 市消防本部 引揚救助チーム

県消防救助技術大会を制した

## 際立つ救助技術の高さ

県下26消防本部が参加した第41回静岡県消防救助技術大会の引揚救助部門で、御前崎市消防本部の引揚救助チームが見事優勝した。隊員の技術レベルが、県下でもトップクラスであることがあらためて証明された。引揚救助は、5人1組がチームとなり、空気が高さが7層の訓練塔からロープを使って降下し、地上で待つ負傷者を塔上へ引き揚げた後、再度ロープを使い、自らも塔上へ脱出するというもので、人命救助のスピードと正確さを競う種目。スタートの合図とともに、隊員がロープを巧みに操り一気に駆け降りる様は一刻を争う人命救助の現場そのもの。これは、マンホール内での事故の他、海や川、崖などから転落した人を救助することを想定している。

## 御前崎市消防を全国へ

24時間体制の消防署は3つの部から編成されており、職員は交代制で勤務している。今回の出場メンバーは、別々

の部に所属しているため、勤務時間が異なる。そのため、毎日の訓練は、どちらかが当直外の時間帯で実施することになる。1日3時間の訓練は、体力的にもかなり厳しいはずだが、彼らは、決して疲れた表情を見せない。

県大会優勝チームは、1都9県の代表チームで競う関東大会へ出場する。御前崎市消防本部は、これまで2大会連続出場を果たしており、チームを指揮する鈴木千明隊長は「当初から関東大会は通過点と捉え、全国大会出場を目指して訓練を重ねています。隊員は、普段から体力づくりと救助技術の研究に余念がありません。救助にあたっては現場の状況に応じた救助方法を常に考え訓練に励んでいます。地域住民の生命を守るため、これからも最善を尽くします」と力強く語る。

予想される東海地震や津波への不安が高まる中、市民の安全に対する関心と消防に寄せる期待は大きい。隊員たちには、これからも市民の信頼に応えてくれる頼もしい存在であり続けてほしい。